

文芸OGネットワーク通信

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1
 共立女子大学文芸学部劇芸術研究室内 文芸 OG ネットワーク
 URL www.kyoritsu-wu.ac.jp/bungei
 代表 川瀬 治子 発行 2022. 9. 30

vol. 35

学び直しの文章

コロナは全ての日常を変えた。大きな事から小さな事にまで。勿論例外なく私にもだ。

この数年私は「エッセイ教室」を受講している。きっかけは、あるお寺だ。そこでは、ご本尊の縁日、参道の草刈り、お堂の大掃除、豆撒きと行事の度に人が集まる。私も全てではないが時々行っていた。今年 17 回忌になる前住職時代は、いつも沢山の参詣人が来た。

その住職の後を、ご長女夫妻が継がれた。

前住職が高齢だったのに合わせ、多くのご信徒も高齢になり、自力で参詣できなくなった。(寺は山の中腹で、アクセスが悪いため)

有名な寺院なら代替わりしても、参詣人の数に変わりはないが小さな寺は違う。そこで、しばらく後に現住職を盛り立てようと応援団ができた。それまで私は発起人達のように、深くお寺に関わっていた訳ではなかった。発起人達が話し合い、幾つかの事が決まった。

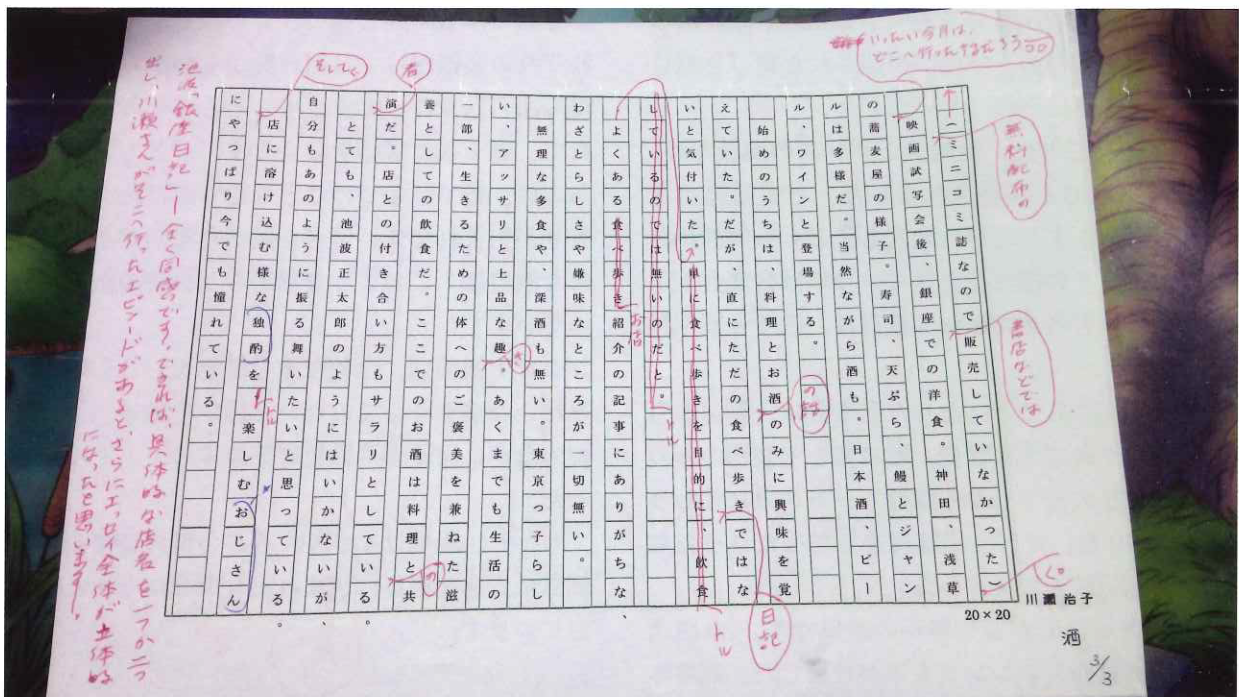
その中で寺の行事をもっと知ってもらう為に、広報紙を出すことになった。そこで、全く予想していなかったのに私が指名されたのだ。これには「何で私か？」と驚

いたが、断り切れず引き受けた。後日信徒さんから「いつも楽しく読んでいる」と、言われた。住職夫人からも「評判いい」と言われていたが、その時は真に受けなかった。だが他人から私の拙文を、お世辞でも楽しいと言われたのだ。その時、これはもっとまともに書かなくては失礼だと思い、文章を学ぶことにした。

受講してみて、いかにこれまで何も気付かず書いていたのか思い知った。今でも、赤い添削だらけで返ってくる課題文に変わりはないのだが、教室での受講と、他の受講者との会話に加え懇親会も楽しみだった。それを目に見えないウイルスが変えた。長い集会制限の為、3月で他の講座全てが廃止となった。幸いにもエッセイ教室は通信だけでも可能として残った。

毎月添削指導と参考文を読む。だけど、やはり直に受講するのに優るものはないと今更思う。それでも、教室が有る限りは続けるつもりだ。

川瀬治子 (1977 卒)



「酒」の添削指導の結果

献体のこと

文芸学部第2期生の秋元藍さんに、最近考えること等を書いていただきました。

昭和40年代、50年代（1960～70年代頃）医学部の教授は、学生の教材にする死体を求めて走り回っていた。最高学府の紳士が「死体！死体！」と叫びながらドラキュラのように駆け回っているという新聞記事を読んだ私は、献体を総合的に扱う白菊会に入会した。献体番号は7686番。「あらッ、7686陀仏」と呟いた私は運命的なものを感じた。

献体は死後70時間以内に遺体を献体先の大学病院に渡すのが条件だった。死後3日たつと身体の組織が腐敗し使いものにならなくなるためである。

私は東京在住なので東大病院の配属となった。まだ40代初めの私にとって死は遙か彼方だった。時々解剖の場を想像してみた。医学部は男子学生が多いから、私を解剖するのは若い男。ちょっと恥ずかしいけど私ごみのハンサム君だったら、閉じていた眼がパッとひらくかもしれない。冗談よ、ジョウダン。怪談じゃないんだから。

毎年東大病院から年賀状が届くので、私も年賀状を送る。「まだ生きてます。お役目果たせ無くてゴメンナサイ」と謝りを書き添えて……。ところが私は65歳の夏、心臓冠動脈で（同時に4本のバイパス手術を受けた）5時間以上かかった手術が成功し、麻酔から覚めた私に執刀医は「この心臓は百歳まで元気にうち続けます」とタイコバンを捺してくれた。

或日コットンと心臓が止まったら、私は出来そこないの打ち上げ花火のようにヒョロヒョロ~~~~と空にノボル~~~~。1円玉くらいの星屑スターダストになって天の川のイチバーンスミッコでチカチカマタタイテいるわ。もし私に気付いたら、投げキッスを送ってネ。



秋元藍（1958卒）

子ども達に笑顔を一コロナ禍の音楽会—

今年（2022年）3月まで小学校教諭として教育に携わってこられた春山淑子さんにコロナ禍での学校行事のようすを書いていただきました。

私は今年の3月まで小学校の教員をしていました。この2年間、コロナ禍でも子ども達も教員も保護者も皆で学校教育の心温まる場面を作ってきました。この度は、その一場面をお伝えしたいと思います。

恐る恐る過ごした2020年を経て、2021年は数回の学級閉鎖はあったものの、学校が再開された喜びを感じつつ子ども達は元気に登校していました。

運動会は2学年ごとに、徒競争とダンスの演技だけ。観客は1家族1名のみが許されました。とても縮小された運動会ではありましたが、大人も子どもも笑顔があふれていました。その様な姿を見て、今年は音楽会も是非させてあげたいと考えた私たち教員は、色々と策を練りました。

学年ごとに実施することになった音楽会は、緊急事態宣言が出たらクラスごとに変更。歌は無しで楽器のみの演奏。幸い感染拡大につながる鍵盤ハーモニカに代わるキーボードを40台、愛校会が寄付をしてくださったおかげで、曲の選択肢も増えました。

中でも大変だったのが音楽専科の教員です。20曲余りのクラス数の選曲とアレンジを手がけました。高学年には、楽器ごとのデモテープを作り、自学できるよう

にとの配慮もしていました。運動会が終わってからの4か月の間、練習と本番が6回繰り返されました。

一方、子ども達はばらばらの楽器の音色をひとつにするために、授業中だけでなく、朝や休み時間・給食配膳中とあらゆる時間を見つけての練習が始まりました。それぞれの楽器だけでは何の曲かもわからない音が、だんだん曲らしくなってきます。そしてその曲に感情が生まれて、聴く人に感動を与えます。子ども達は自信に満ちあふれ、皆でひとつのことをやり遂げたクラスにはまともりが生まれます。子ども達から笑顔がこぼれます。私たち教員は、このような素晴らしい時のために、日夜働いています。

コロナ禍前は、全校で歌を聴き合い、1年生は6年生みたいな演奏をしてみたいと思いを馳せ、子ども達の天使の歌声に保護者や教員は感涙する…、そんな音楽会でした。

しかし、規模は小さくてもこの度の音楽会が、以前と同様に大きな喜びに包まれた音楽会になったことと確信しています。

春山淑子（1979卒）



女性の自立と社会的地位向上をめざす建学精神のもと、創立136周年を迎えた共立女子学園。学び舎を築いたあと、仕事や家庭、地域など社会の様々なシーンで共立 spirit を放っているOGを紹介していきます。

file 11 藤代あゆみ

Ayumi Fujishiro

シンガポールの会社で多国籍の部下と共に、日本の伝統工芸「和紙」から地球環境にやさしい様々な製品の開発、販売に携わる一方、国際明酒師・日本酒学講師・酒匠という3つの資格を持ち(3つの資格を持つのは世界で16人ほどとか)、英語で日本酒を解説できるエキスパートとして活躍中。そして今もっとも力を入れているのが世界に向けた漫画の伝道とか。

そんなエネルギー溢れる日々を過ごす藤代あゆみさん(2012年卒)にお話を伺いました。

— まずは、大学生活の思い出、印象に残っていることを聞かせてください。

先生方と一緒に食事に行ったり、美術館に行ったり、とにかく仲が良かったです。高校までの「先生と生徒」という関係とは違って、先生とディスカッションできることが新鮮でした。生意気なことを言っていたと思いますが(笑)、一学生の意見も尊重してくれる。どの先生もそういう感じでしたので、とても居心地が良かったです。

— 確かにフラットな雰囲気ありますよね、これも共立の特徴かもしれませんね。劇芸術コースでは、どんなことを学ばれたのですか。

伝統芸能と縁のある家庭環境で育ったこともあり、幼少の頃から日本舞踊や長唄三味線を習っていたので、改めて学問として向き合っていくことは有意義でした。例えば、世界観も心情的なものも理解できない幼い頃に踊った作品を学ぶことで、「あー、こういうことだったのか」と目からウロコで、とても興味深かったです。

— 学外での活動も精力的に行っていたとか。

学外では、現役の音楽プロデューサーが顧問を務めるインターンシップ団体に所属し、アーティストのプロモーションや音楽フェスのサポート業務に関わっていました。結構、過酷だったので辞める学生も多かったのですが、音楽フェスでは2年目にインフォメーション・リーダーを務め、4年間やりきりました。

— エネルギー溢れる学生時代を過ごされたんですね。卒業後は、どんな道に進まれたのですか。

就活は遅れてのスタートでしたが、総務部門のアウトソーシング(外部委託)を担う大手企業に就職しました。働き始めると毎日終電の超激務で、10か月後に突発性難聴を発症、立つこともできない状態で診断後、即入院でした。病状は少しずつ安定してきたものの、考えた末、退職しました。今後どうしようかと考えていくなかで、父親がシンガポールに設立した和紙製品を扱う会社で働くことになりました。

— 和紙製品の会社では、どのようなお仕事をされているのですか？

私は、何でも屋ですね(笑)。事業としては、和紙から作った糸で生地を作り、そこから様々な製品を生み出し、販売しているのですが、和紙の持つ植物の力ってすごいですよ。抗菌、抗ウイルス、抗臭、UVカットなどの機能があって、この和紙製の生地を土に置くと、3か月くらいで土に還るんです。ゴミにならないうえに、和紙製のネットを敷いた畑で作った野菜は甘みや栄養価も増すので、そこで野菜を育てて、ハラル(イスラム教徒が食べる食品)やビーガンに対応した冷凍食品も作っています。

— 和紙が生み出すサステナブルな製品を世界に届ける、有意義なお仕事ですね。その一方で、日本酒のエキスパートとして、アジア、オセアニア、ヨーロッパ、北米、南米など世界20カ国以上の人に向けて日本酒文化を伝える活動もしているとか。

お酒は、ずっと好きなので、なるべくしてたどり着いたのかもしれませんが、「国際刺酒師」は、シンガポールで出会った方から「資格、取ってみたら」とサラッと勧められたのがきっかけでした。実は今、もっとも力を入れているのが漫画の伝道です(笑)。毎月、英語、中国語、タイ語に翻訳して世界へ発信しています。海外のファンと日本の作家をつないで、世界中で日本の漫画を楽しんでもらいたいんです。

— 愛と情熱が伝わってきます！

では最後に後輩に向けてメッセージをお願いします。

相手のことを否定しない、自分のことも押しつけない
— 私が感じている共立 spirit です。どこで生きていくにも大切にしたい spirit ですよね。

— 貴重なお話をありがとうございました。

聞き手 高橋京子(1989卒)



連載 私の学生時代 — 文芸学部で学んだ日々② —

今回は第1期生の山田史子さんに書いていただきました。

70年前の大学時代の思い出

第1期生の私達は、東大や東北大で教鞭をとられていた先生方の講義を受けさせていただきました。私は国文科だったので、東北大からいらした岡崎義恵先生のお話が印象に残っています。岡崎先生は「図書館で良い文学書を読み、良い美術展を観て文化的視野を広げるように。良い環境はしっかり活かすことが大切」と話されました。フランス語の田辺貞之助先生も、ドイツ語の小宮豊隆先生も東大から来てくださり、文芸学部長には新関良三先生が就任されるなど、とても恵まれた教育環境だったと感謝しております。共立講堂では月に1度、鳩山薫学長のお話を拝聴する全学集会がありました。

「出版と編集」を講義してくださっ

た岩波書店の局長、布川角左衛門先生は、2年生の夏休みだったと思いますが、同受講生の土肥(小山)郁子さんと私を、軽井沢にある別荘へお招きくださいました。先生がお持ちの2軒の別荘のうちの1軒を私たちにお貸しくださり、ひと夏を過ごさせていただいたことは忘れぬ思い出です。先生は、その別荘地にお住まいの多様な文化人とお会いになる時には私たちをお連れくださいました。また浅間山を見ながらの乗馬もさせていただきました。

課外活動では他大学との交流もあつた「短歌サークル」に参加し、月1回、早稲田大学の窪田章一郎先生にもご指導いただきました。

私は広島出身なので、最初は神保町の寮に入れていただき、後には杉並の成宗寮に入りました。2年生の6月だったか、新入生の入寮記念

行事のバレーボール大会に選手で出場していましたが、試合途中から右下の腹部が痛み出し、急性盲腸炎を発症、杉並の外科病院に入院、手術を受け、1ヶ月休学しました。両親は広島の田舎から呼び出されて、本当に大変だったと思います。

4年次には、「夏目漱石『明暗』論」で300頁余りの卒業論文を書きあげ、学生生活が終了しました。

卒業後、医学書の出版社に5年間勤め、結婚を機に退職、6人の子供を無我夢中で育て上げ、最近やっと学生時代を懐かしむ心のゆとりができたように思います。

昨今は日々、世界の平和を念じながら、元気に暮らしております。

山田史子(岡竹)(1957卒)

広場

著書紹介

『日本酒オタクのほろ酔い英語 — 日本酒が好き過ぎて飲み過ぎたら英語で語れる国際唎酒師になってしまった』

藤代あゆみ著

EJ新書・Kindle版(アルク ソクデジBOOKS)
2020/12/8発行

日本酒の知識や日本酒を世界に紹介するための英語のフレーズを教えてくれる一冊。電子書籍です。

『押し英語入門』

藤代あゆみ著

Kindle版と単行本(アルク)
2022/08/12発行

ENGLISH JOURNAL ONLINEの連載がパワーアップして書籍化されたもの。「もっと押し活が楽しくなる」シンプル英語のフレーズ集。



論文紹介

町田市に住む私の家の近くに、共立の同窓生で東京都立大学のプレミアムカレッジの修士論文として共立の創設者の1人である鳩山春子先生を対象を選び、まとめた方がいらっしゃいます。山本なおみさんと、中学から共立で、短大に進まれた方ですが、60代になってまた勉強がしたくなりプレミアムカレッジに通い、とても立派な論文を書かれました。

私は卒業生の1人として、近代日本女子教育の先駆者としての鳩山春子先生について詳しく知る機会をいただけて喜んでます。山本さんは文芸学部のご出身ではありませんが、いつか機会が有りましたら講演などしていただけたら嬉しいなと思っております。

『松本市史研究—松本市文書館紀要—』第31号と第32号に山本さんの論文が掲載されています。同窓生の活躍は嬉しいですね。

稲見和子(1974卒)

掲示板

INFORMATION

- ・2021年度収支報告案と2022年度予算案は文書での確認の結果、承認されました。
- ・コロナ感染が収まらず、今年度もサロン講座は開催せず、共立祭にも参加しないことにいたしました。

編集後記

EDITOR'S NOTE

今回は編集会議はzoomによって行いました。「通信」の発行も年1回になってしまい、会員のみなさまには大変申しわけなく感じていますが、そのぶん内容の濃い「通信」を発行して行きたいと思っています。みなさまからのご感想をいただけると嬉しいです。(O)